先輩職員からのメッセージ

粕屋南部消防本部

中部消防署　警備第２課　救急隊

消防士長　北原　史織（平成 28 年度採用）

私は現在 35 歳で 11 年目を迎えました

私は前職、民間企業で営業職として勤務していました。仕事にやりがいを感じていましたが、次第に「商品を通してではなく、直接人の役に立てる仕事がしたい」という思いが強くなりました。また、スポーツで培った体力や精神力を活かしたいという気持ちもあり、社会人として働きながら消防士の採用試験に挑戦しました。

採用後数年が経過し、私は救急隊に配属されました。令和７年には救急救命士の資格を取得し、現在では救急救命士として日々さまざまな救急現場へ出動しています。

救急出動件数は年々増加していますが、現場は毎回異なります。同じ現場、同じ傷病者は一人としておらず、常に臨機応変な判断が求められます。プレッシャーの大きい仕事ではありますが、それこそがこの仕事の魅力でもあります。

私たち救急隊は、傷病者の病態を的確に判断し、適切な医療機関に搬送することが求められます。また、必要に応じて、特定行為と呼ばれる救急救命士による処置を実施するなど、現場では常に責任ある判断が必要となります。

自分が学んできた知識や経験が、目の前の傷病者やその家族の安心につながり、一分一秒を争う現場で命をつなぐことができたと感じられたとき、この仕事にしかない大きなやりがいを感じます。消防の仕事は決して楽なことばかりではありません。しかしその分、自分自身を大きく成長させてくれる貴重な経験が詰まっています。毎日が新しい経験の連続であり、「飽きることない仕事」だと感じています。

これから消防士を目指す皆さんの中には、「今からでも遅くないだろうか」「自分にできるだろうか」と不安に感じる方もいるかもしれません。私自身も、決して早い年齢で消防を目指したわけではありません。

しかし、前職や社会人経験があるからこそ見えること、感じられるやりがいがあり、経験が無駄だったとは感じていません。

不安なこともあると思いますが、「人の役に立ちたい」「自分を試してみたい」というその熱い気持ちを、ぜひ試験にぶつけてください。

いつか皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

中部消防署　警備第３課　救助隊

消防士長　櫻木　克海（平成 30 年度採用）

私は現在 28 歳、消防士として９年目を迎えました。

私がこの道を志したきっかけは、高校生の頃に参加したインターンシップです。当時、消防署の方に「普段の訓練で、きついことや辛いことは何ですか」と質問した際、返ってきた言葉が今でも強く心に残っています。

「きつい、辛いとは思わないようにしています。なぜなら、現場で助けを求めている人が一番きつく、辛い状況にあるからです。その人たちを救うために、私たちは日々の訓練を頑張っています。」

ただ厳しい訓練をこなすのではなく、助けを待つ人のために努力を続けるその姿勢に強く憧れ、消防士を目指すことを決意しました。

あれから９年。実際に現場に立つ今、消防士という仕事の奥深さを日々実感しています。

消防士という仕事は、燃え上がる火を消す、あるいは傷ついた人を救い出すといった「現場の瞬間」に注目されがちです。しかし、私たちが一秒でも早く、一人でも多くの命を救うためには、その一瞬を支える「終わりのない準備」こそが欠かせません。

日々の訓練や現場活動は決して簡単なものではありません。しかし、困難な状況下でチームとして最適な活動を行い、住民の皆様に安心を届けることができた時には、プロとしての成長を強く実感します。そこに、この仕事の大きなやりがいがあります。

最初から完璧にできる人はいません。現場で先輩や仲間に支えられながら、一歩ずつみんなで成長していきましょう！また、近年は若手職員の育成や働きやすい職場環境づくりにも力が入れられており、安心して成長できる環境が整えられています。

消防士という仕事は、人の命や暮らしを守る非常に責任ある仕事です。その分、自分自身も大きく成長できる素晴らしい仕事だと思います。「誰かの力になりたい」という皆さんの純粋な意志と、昨日の自分より強くなりたいという向上心があれば、必ず立派な消防士になれます！

少しでも興味がある方は、ぜひ挑戦してみてください。
皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

南部消防署　警備第２課　消防隊

消防士　中西　佑太（令和５年度採用）

私は現在 27 歳、消防職員 4 年目です。

消防職員を目指したきっかけは、大学 4 年生の時に、家族や友人など周囲の人から「消防士が似合っている」と言われたことでした。最初は何気ない言葉でしたが、消防という仕事について調べていくうちに、人の役に立ち、地域を支えることができる仕事に大きな魅力を感じるようになりました。そして次第に、「自分も消防職員として地域住民の力になりたい」と強く思うようになりました。

実際に働き始めてからは、想像していた以上に責任の大きい仕事だと感じています。災害現場では、一つひとつの判断や行動が人命に関わるため、常に緊張感を持って活動しています。しかし、その分、自分自身が成長できる仕事でもあり、日々多くのことを学びながら勤務しています。

また、働き始めて特に印象に残っているのは、職場のメリハリがしっかりしていることです。訓練や現場活動では厳しく真剣に取り組みますが、休憩中は先輩後輩関係なくコミュニケーションを取りやすく、明るい雰囲気があります。優しい先輩方も多く、分からないことや不安なことも相談しやすいため、安心して仕事に取り組むことができています。

消防の仕事は、火災や救急、災害対応だけではありません。地域で行う避難訓練や署見学などの防災指導を通して、地域住民の方々と関わる機会も多くあります。子どもたちが笑顔で話しかけてくれたり、地域の方から「ありがとう」と感謝の言葉をいただいたりすると、この仕事を選んで本当に良かったと感じます。地域の安全を守るという使命感と、人から感謝される喜びの両方を感じられることが、この仕事の大きなやりがいです。

私は就職浪人を経験し、1 年間独学で勉強を続けました。周りが就職していく中で焦りや不安を感じることもありましたが、「消防職員になりたい」という気持ちを諦めず、自分なりに努力を続けました。その結果、今では充実した毎日を送りながら、消防職員として地域のために働くことができています。

消防職員を目指している皆さんも、不安なことや大変なことがたくさんあると思います。しかし、努力した時間は決して無駄にはなりません。自分を信じて最後まで諦めずに頑張ってください。

皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています！